

第3回医療のまちづくりビジョン策定懇談会会議録

1 日 時 令和8年2月10日（火） 午後2時～2時50分

2 場 所 生駒市メディカルセンター3階研修室

3 参加者

京都府立医科大学 大学院医学研究科 総合医療・地域医療学講師	関本美穂
生駒市歯科医師会 会長	佐々木昇
生駒地区薬剤師会 会長	中栖光啓
生駒市立病院 院長	遠藤清
(社福)宝山寺福祉事業団 総合施設やすらぎの杜延寿施設長	井上太
生駒市社会福祉協議会 地域包括支援センター 管理者	北村香織
(一財)生駒メディカルセンター・訪問看護ステーション・ 北訪問看護ステーション統括所長	堀井久仁子
訪問介護ステーションエリクシール 管理者	久本真吾
生駒市立病院ワークショップ参加者	奥田陽子
生駒市老人クラブ連合会	加来洋八郎
市教育委員会教育指導課 課長	花山浩一
市デジタルイノベーション推進課 課長	立田久美子

事務局【生駒市】小紫市長、吉村子育て健康部長、岡村子育て健康部次長、
知浦課長、天野課長補佐、奥野主幹、川口係員

4 欠席者

(一社)生駒市医師会 会長	有山武志
(社福)宝山寺福祉事業団 生活支援センターあすなろ センター長	中井加苗
奈良県発達障害者支援センターでいあー	中村匡志
奈良県郡山保健所 所長	水野文子

5 案件

パブリックコメントの結果について

6 会議の公開・非公開の別 公開

7 傍聴者 あり

【事務局】

「第3回 医療のまちづくりビジョン策定懇談会」を開催いたします。

参加者の皆様におかれましては、お忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。

本日の会議は、「生駒市の附属機関及び懇談会等の取扱いに関する指針」第12条の規定により、公開しております。また、会議録作成のため、録音させていただきますので、ご了承ください。

【関本座長】

それでは会議次第１「案件」として、パブリックコメントの結果について、パブリックコメントでいただいた意見とそれに対する市の考え方、どのようにビジョンに反映したのか、事務局から説明をいただきます。

【事務局】

前回の懇談会后、生駒市パブリックコメント手続き条例に基づき、生駒市議会で説明するとともに、令和７年１２月１８日から令和８年１月１９日に、社会教育施設、市役所、市ホームページなどでビジョン案を示し、意見を募集しました。

その結果、市議会の厚生文教委員会で２名、市民等５名から合計１９件のご意見をいただき、このご意見をもとに７つの修正をしました。

ご意見と修正内容は、資料１にまとめました。

また、資料２では、いただいたご意見を反映した部分を朱書きで示していますので、併せてご確認ください。

資料２のビジョン案で、ページ順に修正箇所を説明します。

資料２をご覧ください。

まず１ページ８行目ですが、当初は発達障がいでしたが、最近は神経発達症という言い方もよく使われるので、変えてはどうかというご意見いただきましたので、（神経発達症）という形で書かせていただいています。この言葉については、以下７箇所、目次も１箇所変えています。

続きまして、１ページ２８行～３８行目、ビジョンの概要の説明ですが、基本理念があり課題がある構成に前回２回目のときに変えていました。今回この場所をそれに合わせておいた方がいいのではないかというご意見をいただきましたので、「医療のまちづくり推進に当たっての基本理念」と「取り組むべき医療課題と具体的な対応」ということで、順番を変えて、このように書かせていただいています。

３３行目「取り組むべき医療課題と具体的な対応」のところで、今までは課題しか書いてなかったのですが、対応もこのように考えていくということで、文字を追加させていただいています。

続きまして、２ページ７行目、分野という言葉がいらないのではないかということで、事務局でも精査し、「これらのことから、医療の視点に立って、それぞれの計画の隙間をなくし、繋げ、関わりを持っていくものとして位置づけています」という文章に変えています。

２ページ３３行目に赤字で解釈を入れています。生駒市医療のまちづくりビジョン自体が、今ある生駒市の各計画と繋がっていることを模式的に表していますが、各計画の中身を知らない方にもわかっていただけるように、何か工夫したらどうかというご意見をいただきましたので、「ここに各種計画の詳細は、２９ページの巻末資料をご覧ください。」と書かせていただき、２９ページに参考資料ということで、各種計画の詳細は２次元コードを読み込んでホームページに繋がるように工夫しています。

３ページ１９行目ですが、合計特殊出生率についての説明が必要ではないかというご意見をいただきましたので、１９行目から※で書かせていただいています。この図表２は、

生駒市のこども計画の出典で、そこに合計特殊出生率の説明書きがありましたのでそのまま書かせていただいています。

８ページの「図表１０ 健康寿命（６５歳平均自立期間）」が書かれていますが、これについての説明が必要ではないかというご意見をいただきました。健康いこま２１から抜き出させていただいた図表を使わせていただいていますので、５行目から６行目に、「６５歳以上平均自立期間は、奈良県が算出する、６５歳平均余命から平均要介護期間を除いて算出しています。」と、そこにある説明書きを書かせていただいています。

この書き方ですが、本文に入れるのがいいのか、もう一度精査して事務局で表し方を変えさせてもらおうと思います。説明文章は変えることはないですが、どこに書くか、こちらで検討させてもらいたいと思いますので、ご了承いただきたいと思います。

続きまして１７ページ２行目ですが、元々は発達障がいなどへの社会不安の高まりという表現でしたが、ネガティブな言葉でもありますので、社会不安の高まりを対応に変えさせていただきまして、発達障がい（神経発達症）などへの対応という書き方に変えさせていただいています。ご意見としていただいていたので、そのような形で変えさせていただいています。

パブリックコメントをいただき、変えさせていただいたところは今説明させていただいたところ です。

前回の資料ではありませんでしたが、事務局で追加させていただいたページといたしまして、２５ページ目からです。

２５ページ目から巻末資料ということで４つほど入れています。一つ目はビジョンの策定の経緯ということで、どのように作られてきたのかを書かせていただいています。

２６～２７ページ目、生駒市医療のまちづくりビジョン策定懇談会開催要項を掲載させていただいています。

２８ページには参加者名簿、最後のページに、計画の詳細のＱＲコードを掲載させていただいています。以上です。

【関本座長】

ただいまの説明について、ご意見やご質問はありますか。

【奥田さん】

実際これが今後どうなっていくのでしょうか。今回で生駒市の医療のまちづくりビジョンが完成すると考えているのか、そして完成した後にどのように活用していくものになるのかを教えてください。

【事務局】

このビジョンはこの後、生駒市の方で策定という形を取らせていただきます。その後、本書で少し要約したもの、概要版を作りたいと考えていて、各分野の関係団体や関係機関に、生駒市のこの医療のまちづくりの考え方をしっかり説明していきたいと思っています。同時に、ホームページへの掲載や市民にもお聞きして、各分野の関係者の方々に生駒の課題を共有していただいて、しっかり今後連携していき、よりよいまちづくりを進めていくこ

とに賛同いただけるように、事務局始め関係する課も含め、生駒市全体で、今後進めてまいりたいと考えています。

【奥田さん】

18ページの「図表24 連携のイメージ」を入れていただき、おっしゃっていただいたことはそうなればいいということで書かれていると思います。

例えば過去にワークショップ等もありましたが、市民が真ん中において、様々な関係機関が連携していく形についての皆さんの意見交換、市民やステークホルダーの方が対話する場が広がればいいと思いますので、よろしければお願いします。

【事務局】

おっしゃる通りだと思います。みんなでいろいろ話し合う場を作っていけるように検討していきたいと思っています。

【遠藤さん】

文章の精度ですが、18ページの図の医療の下の地区医師会と市医師会と二つ載っていますが、市の医師会というのは、市の医師会というたてつけではなくて地区医師会の中の一つの医師会ということになります。

通常は、地区医師会というと、生駒郡と生駒市を合体したものを示します。そうすると両方入れる意味があるのか、地区医師会だけでいいのか、それとも行政単位のような医師会のいろんな構成単位としての正式な名前ではない市の医師会でいいのかということです。両方載せてもいいのですが、医師会が二つあるのが変に思う人がいるのかもしれないと思います。市の医師会というのはその一つの形なので、二つ併記するのがいいのか、どちらかにまとめるのがいいのかということです。地区医師会にすると生駒郡は入ります。うやむやでもいいのかもしれませんが、どのぐらい精度を上げて作るのかということなのです。

【事務局】

おっしゃっていただいた通りです。基本的には地区医師会さん中心になりますが、市の保健行政では市医師会がいろいろご協力いただいていますので、地域全体のプレーヤーとして市医師会というのと、病院、医療となりますと保健所単位という形になりますので、地区医師会、生駒市だけではなく西和医療圏全体という意味を込めまして、こちらの方には地区医師会、市医師会と併記して整理をさせていただきました。

【小紫市長】

今回参加者の中に佐々木さんや中栖さんもいらっしゃいますので、医療のところに歯科医師会や薬剤師会も書かなければいけない気もします。医師会の書き方は、地区医師会、または市医師会と書くのか、両方書くのかはもう一回整理させていただきたいと思います。参加の皆様がここにきちんと出てくるように改めます。歯科医師会や薬剤師会も医療のところに入ってくる気もしますので、整理させていただければと思います。

【関本座長】

他にご意見ありますか。

地区医師会、市医師会に加えて、歯科医師会、薬剤師会、こういうのも反映して入れるということで、ビジョンへの反映をよろしくお願いします。

【奥田さん】

図表 2 4 に関して、1 行目「大学等学術研究機関や専門家との連携」や「消防との連携」が出ており、災害リスクの対応が消防と関係すると思いますが、この図がどうなったらいいのかをもう少し考えてもいいと思いました。この図はこれで決定しておいて、市民と一緒に話し合っていくことも方法だと思いました。

【関本座長】

事務局いかがですか。

【事務局】

今いただいたご意見も今後、周知啓発していく中で、参考にさせていただきたいと思います。

【関本座長】

他にご意見ご質問ありますか。

【中栖さん】

最後のQRコードのところですが、まちづくりビジョン自体は冊子で見ただけではなく、ネット経由で見ますよね。QRコードはスマホを前提としたリンクですので、1 回スマホで見て、リンクに飛ばすので、パソコンで見る人はとても面倒くさいです。クリックしたら飛ぶようにしたらいいと思います。

【小紫市長】

URL を貼っておきます。

【関本座長】

本件については一部修正と反映ということでよろしくお願いします。

次第「2 その他」ですが、今回のビジョン策定以外、パブリックコメント以外について、何かご意見があればお願いします。

なければ、事務局からお願いします。

【事務局】

たくさんのご貴重なご意見を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

医療のまちづくりビジョンは、このあと、3 月までに生駒市で策定することとなり、各関係機関に周知してまいります。協力体制を組んでいく上で、皆さんとお話し合いしながら

ら、進めていけるようなまちづくりを進めていきたいと思いますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

【関本座長】

それではこの懇談会は今回で終了となります。円滑な進行にご協力いただき、また活発にご討議いただきありがとうございました。

最後に参加者の皆様から、この懇談会の参加に関してご意見やご感想、周知しておきたいことなどあれば、一言ずついただきたいと思います。

【佐々木さん】

生駒市歯科医師会の佐々木です。この委員会に参加させていただき、生駒市の行政がどのような形で、いろんな施策を決定していくのかよくわかり、大変勉強になりました。

私は歯科医師として開業しておりますが、懸念していることは、生駒市の開業している歯科医師の年齢が高齢化しており、70歳以上の医師は5、6人いて、いつ辞めるかわからない一方で、新規で生駒市に開業される医師があまりいないので、この先歯科医療の提供について具合が悪いことがあるかもしれないと懸念しています。行政が立ち入って何かすることではないですが、皆さんもお知りおきいただければと思います。

【中栖さん】

薬剤師会からですが、薬局は処方箋を持って行き、薬をもらって終わりという使い方がほとんどだと思います。こういう懇談会を通じて、国もどんどん進めていますが、地域連携薬局をどんどん進めていこうと思っています。

地域連携薬局は、薬剤師会が制定しました健康サポート薬局も含めたもので、国が定めた方向と非常に近い部分があります。健康サポート薬局はいわゆる地域の住民、需要者に対して患者のために薬局が存在し、処方箋をさばくだけの薬剤師だけではいけないと、どんどん進んでいます。こういうのをまちづくりビジョンの中に取り込んでいただいて、保険薬局は処方箋がなくても入って相談できるということを、行政の方からも皆さんに強く周知していただきたいと思います。

私は個人でやっていますので、自分の患者は気楽に入って来られ、いろんな相談されます。その専門の医師がどこにおられるのかという話から始まり、害虫駆除や草刈り、保険、交通事故、相続の話も相談に来られますが、いわゆるよろず相談をできる人が薬局にはいるので、どんどん活用していただき、かかりつけ薬局かかりつけ薬剤師を一つ作っていただければ、無駄な医療も少しずつ減っていきますし、まさにこの医療のまちづくりに貢献できるのではないかと思いますので、薬局での医療を含めた諸々の相談にはお金がかかりませんので、周知していただければと思います。

【遠藤さん】

この間の県の薬事審議会で、地域連携薬局の話聞いて、今まで自分が病院の方なので、病院やかかりつけ医の面倒見が良い病院等を中心に周りが連携する話ばかりでした。無駄な薬、同じような成分の薬がたくさん出ていることがありますが、いろんな医療機関から

出た薬を一つの薬局で管理をして統括するのをこれからやろうとしています。一つの絵の真ん中に患者がいて、いろいろ周りがサポートしていくのが究極です。医療機関同士の連携や薬局の連携はいろいろ作っています。医療に携わる介護等がそれぞれそういうものを持ち、リンクしながらやっていきます。薬を無駄に出せばカットされて返ってくる等の話で、自分たちだけが全部やらなければいけないということではなく、すごく勉強になりました。

少し心配なのは、国が規制緩和で、薬もオンライン面談をするのを前提にしているらしいですが、面談をしてそして薬を渡すのがコンビニなのか、八百屋さんなのか、誰が渡してもいい規制緩和をするのではないかという話がありました。許可制だと思いますが、最後に渡すところに関して最後に意見を言いました。信頼できない人、例えば薬剤師さんが渡すから医師は処方ができますが、最後に渡すところが大学生では、これは医療と言えるのかと提起していましたが、国として規制緩和の話で、24時間いつでも渡せることを大事にするならそうかもしれませんが、病院が24時間開いていれば、別に病院に窓口作って渡しても構わないので、そういう形がいいのではないかという話をしましたが、そういう国の動きも心配です。

昨日、病院協会の理事会がありました。奈良に74病院ありますが、二つほどの病院がやめて、診療所になっています。人員確保や経営が難しいだけではなく、病院のいろんなこと、税金もそうですが必要経費が高くなってきて、病院経営ができなくなる部分が多いです。

国の発表によると、個人病院で6割赤字、公立病院で8割～9割赤字とされていますが、いろんな原因はあると思いますが、病院が存続しなければこういうまちづくりビジョンも厳しい可能性があります。この会議では必ず今生駒にある5病院は今後10年、20年存続するために何ができるかを病院として考えていくしかないだろうという話をしています。

病院として歯を食いしばってやっていくのが大事だと思いますので、今回いろんな介護の方や三師会、薬剤師、歯科医師、医師のお話を聞かせていただきました。いろんな役割のものがいろいろリンクすることがすごく大事で、それぞれの抱えている問題をそれぞれがそこだけで考えるのではなくて、こういう場を通して考えていけば、何か違う解決策ができると思いました。

【井上さん】

絵に描いた餅にならないように、図が連携するわけではないので、実際には要は連携するということでしょうが、現場レベルが顔の見える関係で、こういうものがあって、そこが本当に機能する連携になることを願います。

こうなったらいいのはすごく思いますが、これまでに何年何十年と連携しようとしてずっと積み重ねて、ようやく今の状態があり、もっといろんなものが複雑に絡んで連携しようというのは、こういうことだと思います。今も遠藤さんがおっしゃっていたのは、いつも図が一つで真ん中に市民がいるということではなく、形態によっては、主になるところが動いたりしながら、一番効率良く無駄のないようになっていくように、顔の見える関係で常に話し合いながら変化しながらできるように進んでいけばいいと思うのは、連携が要であろうと思います。

もう一つは、災害の話も書いてありましたが、災害そのもののリスクは変わらないですが、起きたときにどれだけ人命に関わらないか、僕は高齢者のことをしていると、起きて避難するときの支援者の話になります。

生駒市は、日中は大阪等に働きに行っている方が多いので、支援者になっていると言っても、日中にはいません。毎年のように独居老人がどんどん増えていき、避難しなさいとなっても、実際困ることはあります。災害のところを見ると、当事業所のケアマネは頭を悩ませていて、一つ一つ具現化していくことが必要だろうといつも思います。そうすれば、僕らはどのタイミングで避難するかの話になりますが、そういうケースを抱えている者からすると、私のことはおいといて、あの人はどうしたらいいだろうという話になるのも事実です。今日いったから明日そういう支援者が現れるわけではないですが、少子化傾向にあれば、協力してくれる方の対象が少なくなるのも事実ですので、そういうことがまちぐるみで、できるようになればいいと思います。

【北村さん】

本当にその通りだと痛感しました。まず一つは顔の見える関係作りはすごく大事だと思うので、連携というだけではなく、実際にどうやって連携していくか、こういう場や普段の研修で、利用者のことも話をするようにさせていただいています。災害のことは、本当にその通りだと思い、話を聞いていました。地域包括支援センターの業務の特性もあり、地域の方とよくお会いしてお話を聞かせていただくので、そういうところで聞かせていただいた声を、その関係機関や場合によっては行政にお伝えできるような役割を担っていければと思います。

今回参加させていただき、介護の分野の方だけではなく、医療や障がいの方など様々な分野の方のお話を聞かせていただき、すごく勉強になりました。今回作成していただく生駒市医療のまちづくりビジョンについても、それぞれの課題が整理されてわかりやすくまとめていただいたと思います。参加させていただき、ありがとうございました。

【堀井さん】

私も普段、実際にご病気をされている方で、在宅で療養されている方のところに回っているので、実際に病気にかかっている人はたくさん見っていますが、今回この場に参加させていただき、少子化や発達障がい、これから子どもさんを産む人たちがどれぐらいいるのか等、普段とは違う分野のこと、生駒市の現状を知る機会ができたので、参加させてもらい、すごく良かったと思います。皆さんがおっしゃっているように、連携は日々すごく大事だと思います。1人の利用者で、いろんな職種や事業所の方々と私達もなるべく顔を見合わせて、連携がスムーズになり、利用者が在宅でできるだけ生活できるように私も日々意識して取り組んでいます。今後も違う分野で顔を合わせる場があれば、ぜひ参加してもらい、生駒市民の方がより良くここで過ごせるために尽力できればと思っています。今回は出席させていただき、ありがとうございました。

【久本さん】

介護という立場で参加させていただき、日々現場の職員の方が介護をしているのを見る

中で、一番思うのは、まず介護する側の担い手の年齢層がどんどん上がっていて、60歳以上の方はもちろんですし、70歳以上の方の雇用もどんどん進めていかなければ、十分な介護士を確保できない時代がどんどん近づいてきていることと、ずっと継続していく中で、介護士自身もすごく疲弊をしていき、自分の親も家で介護しながら仕事に来て利用者の方の介護をしながら、自分のこれからの先行きは不透明で、不安の中、仕事をする職員もたくさんいます。

難しい問題だと思いますが、いろんな職種の方や市の皆さんと話し合う機会を通して、みんなが働いている生駒市はこうのように考えてくれていることが、参加をさせていただいた立場の者から現場の職員さんに伝えることができるぐらい、しっかりと理解をしていかないといけないと痛感しています。

今日行ってきた会議の内容を自分の言葉でうまく伝えることは自信がありませんが、できるだけ現場の職員にわかりやすく、短い簡単な言葉で、これから生駒市はこういうところを目指しているので、安心していいと伝えられるように頑張っていきたいと思います。両親に自分がやっている仕事を伝えたときに、生駒市に住みたいと言ってもらえるぐらい魅力のある市だと、自信を持って伝えられるようになればいいと思います。また機会があれば呼んでいただければと思います。

【奥田さん】

生駒市立病院ワークショップ参加者として、今回は出席させていただきました。その前に病院事業推進委員を約6年させていただき、市立病院が10周年でしたので、この10年を考えるようなことができないかお話したことが今回一つ形になったと思い、すごく嬉しいです。

市民としてNPO法人生駒の地域医療を育てる会に入っており、そこで今やっているのが対話です。テーマはいろいろで、今回は神経発達症を取り上げましたが、今日もいろいろお話を聞き、こういう場に出て良かったとおっしゃっているのがすごいと思いました。現場でお忙しい方が多いので、行政の方でこうやって音頭を取っていただくことがすごく良いことだと思います。やっていくのは市民や自分たちでやっていくこともできると思いますが、最初の一声かけていただけたらありがたいと思います。

【加来さん】

医療というのは市民1人1人にとって、ちゃんと繋がっていくようなものになってほしいし、していかないといけない思いで、参加させてもらっています。

生駒にとっては、市立病院ができたこと、そして今医師会からの一員として、みんなで医療の問題をいろんな人も集まって検討できるような時期を迎えたということ自体が大変嬉しいです。

コロナがあって大変でしたが、コロナ禍の経過で行政が中心になって、どのようにこれからしていけばいいのか議論して積極的に提案をしていただいていること自体がありがたいと思います。みんなで作ったということと、行政が市立病院を持ったということで、自分たちがそこにいることは非常に重要なところです。

生駒は医療も含めて、良いまちづくりを進めると思います。せっかく作ったビジョンが

受け継がれていくように、バトンタッチしていく体制を個々全体としても、特に行政は心していただけるとありがたいと思います。

【花山さん】

今回それぞれの専門の方が集まり、このビジョンが策定できたのがすごく良かったと思います。本当に良いビジョンができたと思います。18ページの図にもありますように、医療と福祉と行政、行政の中に教育が入っていますが、そこが連携するということ、発達障がいや不登校の支援についても学校だけで解決できるのではなく、様々な専門の方の知識や支援が必要となります。1人1人の子供にとって、切れ目ない支援ができればと考えています。

【立田さん】

この懇談会に参加させていただきありがとうございました。皆様のように専門知識もなく、普段現場に行くこともない業務をやっていますが、市ではいろんな計画があり、その計画の意見や文書を見ることは多いですが、このように現場を知っておられる方の意見を聞きながら読むビジョンは、本当に見え方が違うと思いました。読んでもとても理解が深まりますし、おっしゃっていたことも私自身も理解が深まり、それがより市民の方にとっても届くような良いビジョンになったと思います。

私は普段のデジタルの技術を使って、いろんなまちや市役所の業務を良くしていく仕事をしていますが、いろんな方がおっしゃっていましたように顔が見える関係や、実際の介護・医療等の様々な支援を支えるような、何か助けになるようなデジタルの使い方はどういうことなのか、市役所に戻ってから日々考えながら業務にあたりたいと思います。この度は本当に貴重な機会をありがとうございました。

【関本座長】

最後に市長からご一言ご挨拶をお願いします。

【小紫市長】

医療のまちづくりビジョンの懇話会にご参加をいただきました皆様へ心から感謝申し上げます。

このビジョンができたということが、まず一つ大きな成果ではあると思うのと、これができて、きちんと活用しないと、ビジョンや計画は意味がなくなります。

計画を作って満足する行政機関がたくさんあります。ビジョンというのは、市民や関係者にこういう思いでやっていく、やっていこうと思うことを視覚化する意味はありますが、そこでとどまってしまうと頑張って作ったビジョンの意味も半分ぐらいになります。

皆さんの団体や関係者・知り合いの方に、まずこのビジョンができたことを知っていただき、ビジョンの中身を目にさせていただくために、各団体を回り、市民の皆様とワークショップして、いろんな意見交換をさせていただき、きっちりやっていけば、さらに意味を成していくだろうと思います。

計画を作って終わりにほしないと、お約束をさせていただきます。お邪魔して、ビジョ

ンの話をして、意見交換をさせていただける団体があれば、積極的に地域医療課に教えていただければ、出前授業やワークショップなどどんな形でもお邪魔をさせていただきたいと思います。

今年度を振り返ると、市立病院の10周年という非常に大きな節目があり、それに先立って市民の皆様と医療関係者が一堂に会してワークショップを行い、いろんなご意見をいただき、それをもとに生駒市の病院事業計画を作りました。いろんな議論が出て、いろんなご意見をいただいて修正して、議論が白熱した結果、とても良い計画ができたと思います。

同時にワークショップで出たご意見をもとに、10周年のときに私からビジョンの試案を発表しましたが、さらにブラッシュアップして、今日このビジョンという形でおまとめる方向になりました。改めて感謝申し上げますとともに、こういうビジョンや市立病院を含めたいろんな事業計画がきっちりできたことは、医療にとって非常に大きな1年だったと思います。

また医療関係者と福祉関係者の協議会は生駒市にはありますが、このビジョンや計画を作るプロセスの中で今まであまり接点がなかった繋がり、例えば教育やデジタルのチームが参加させていただいたり、医療と介護の方が繋がったり、いろんなワークショップに参加していただいた関係者の皆さまが医療関係者と繋がったことで、新しい繋がりが生まれたことも生駒市のこれからの財産になると思います。

いろんなご意見、ご懸念点、これからの不安や期待は全部、我々受け止めました。ビジョンを一つの土台にしながら、医療関係者を今後どう確保していくのか、どういうことを災害の切り口でやっていくのか等の話全てを、地域医療課に言っていただければ関係者も一緒にワークショップや意見交換をしますので、そういう機会をいただいてビジョンを意味のあるものにしていく作業は、これからだと思いますので、引き続きお力添えをいただきたいと思います。

最後になりますが、地域共生社会推進全国サミットが1～2年前にあり、生駒市は地域共生ということをやるまちになりました。地域共生社会とは何か、サミットが終わった後に地域の現場で具体化していくことで、地域共生サミットをした意味や地域共生社会を目指すまちということが、意味が出てくると思いますので、このビジョンを今後いろんな意見交換をさせていただきながら、忙しい中ご議論いただいた意味があったと言ってもらえるようなビジョンにしていくのは、これからのプロセスだと思いますので、終わっても、生駒市に声かけをいただき、こちらからも皆様にお声がけをして、このビジョンを紹介し広めていき、これに基づいて何か具体的な動きが出てくるようなところまで、ご一緒いただければ大変ありがたいです。

18ページの絵に出てこない関係者、自治会や事業所さん等とも連携をして、18ページの絵が機能していると言ってもらえるように、これからしっかりとやっていきたいという決意表明も含め、御礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

【関本座長】

以上をもちまして、「第3回医療のまちづくりビジョン策定懇談会」を終了します。